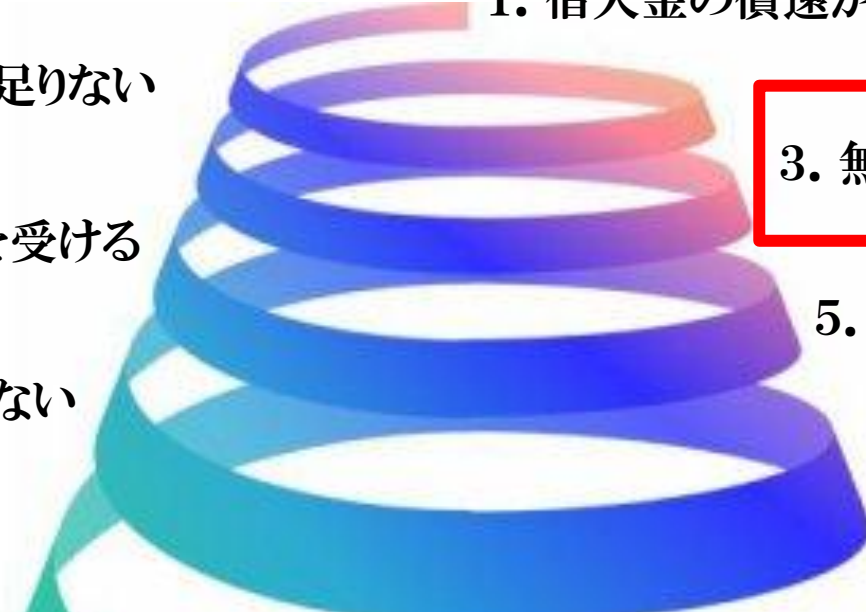


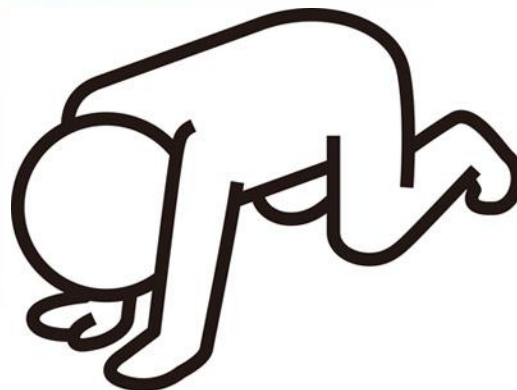
平成27年3月25日
乳用牛ベストパフォーマンス実現会議

キャッシュフローを意識した後継牛確保

- 全国酪農業協同組合連合会
- 購買部 酪農生産指導室
- 丹戸 靖(たんどやすし)

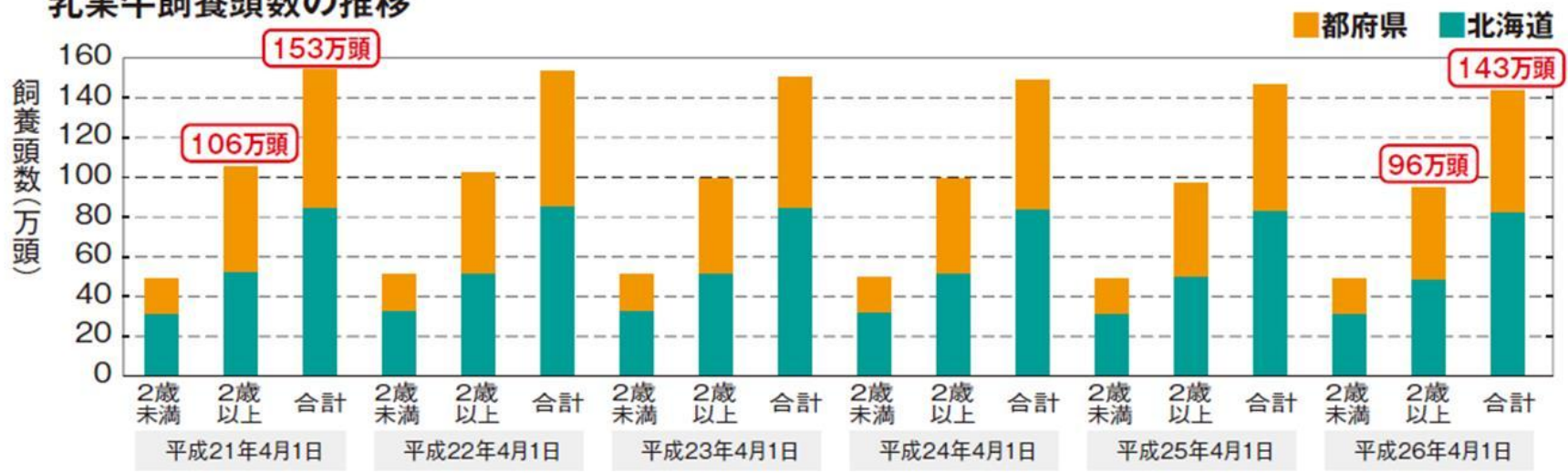
技術 行動 お金

- 
1. 借入金の償還が迫っている
 2. 出荷乳量が足りない
 3. 無理して搾る
 4. ペナルティを受ける
 5. 事故牛
 6. 導入せざるを得ない
 7. 導入直後に事故
 8. 借入金だけ残る



1 経産牛頭数が5年間で10万頭減少している。

乳業牛飼養頭数の推移



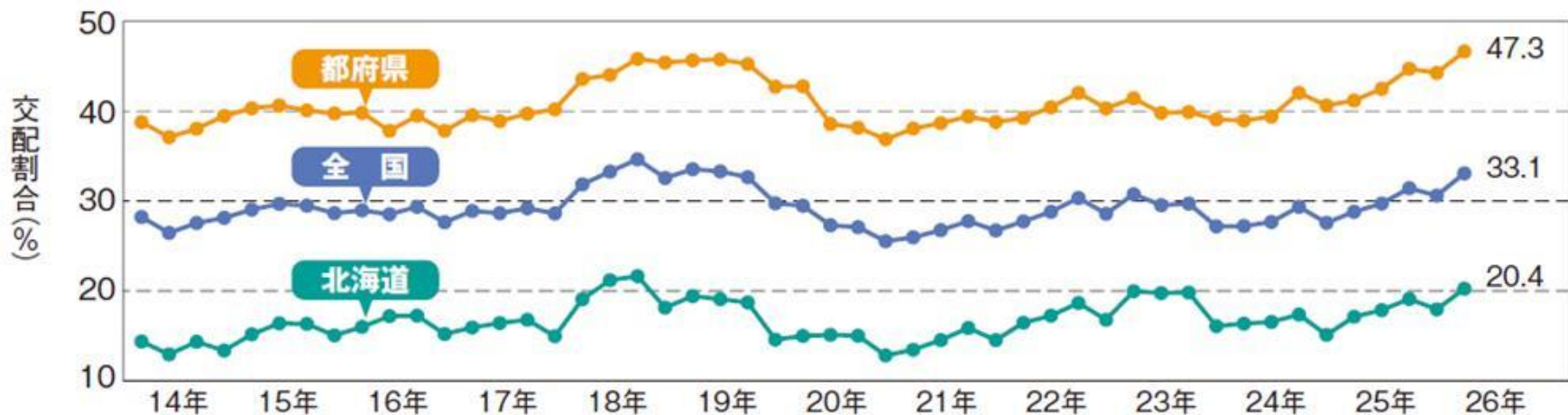
出展：(一社)Jミルクデータより

■育成牛(2歳未満)頭数は減少していませんが、経産牛頭数が10万頭減少しています。

→経産牛の更新が早くなっていることが要因として考えられます。

2 乳用牛への和牛交配率が都府県で47.3%に達している。

乳業牛への黒毛和種の交配



出展：(一社)日本家畜人工授精師協会データより

■平成18年以降で最も黒毛和種の交配比率が高まっています。

→2年後を見通し、後継牛とキャッシュを確保する戦略が必用です。

適正な育成牛保有割合とは？

育成牛保有率↓
導入なし

お金

補完

更新率

スペース

預託

労働力

繁殖
精液

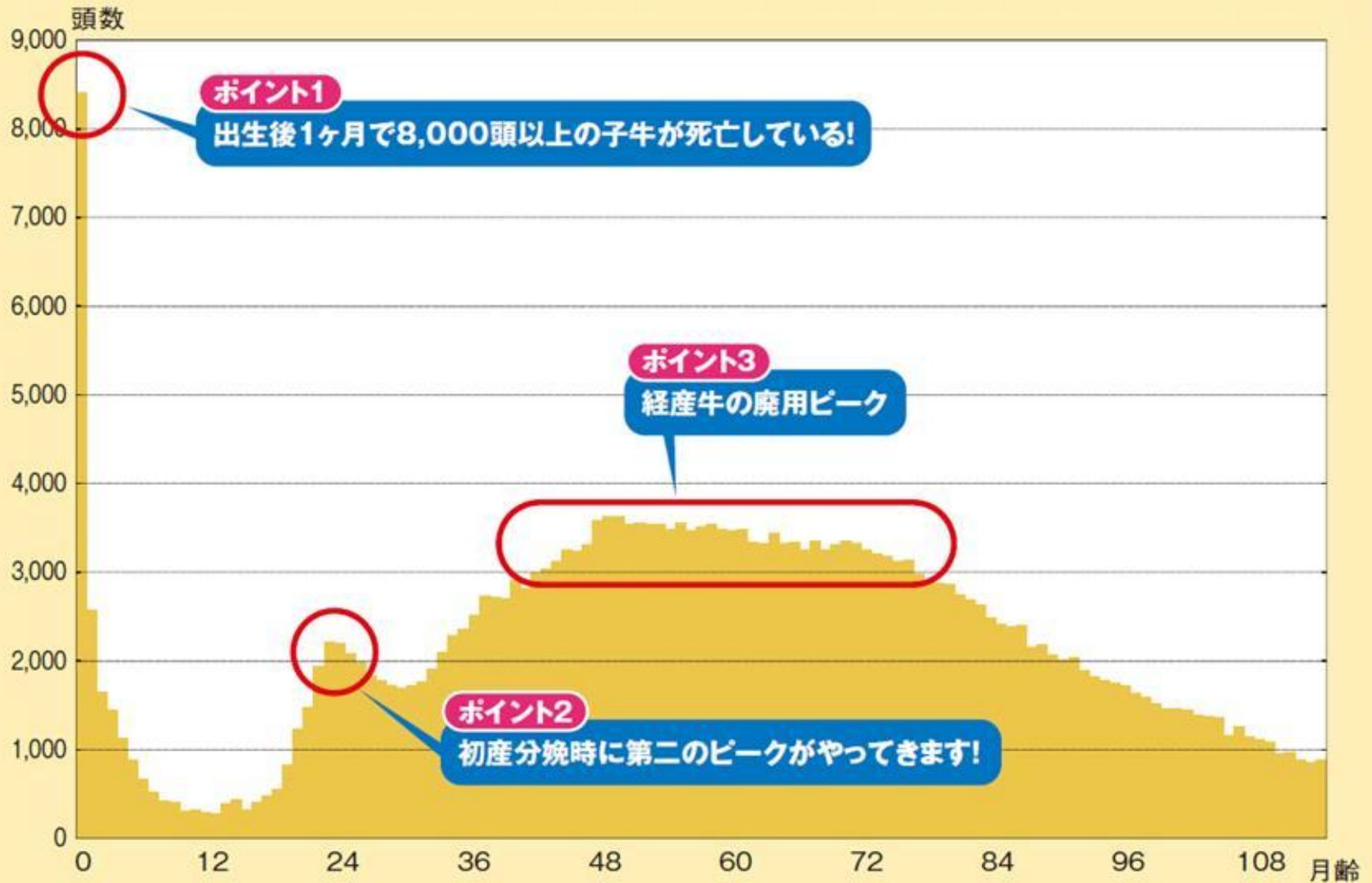
種付
戦略

方向性

■いかにして、牛の流出を減らせるか？

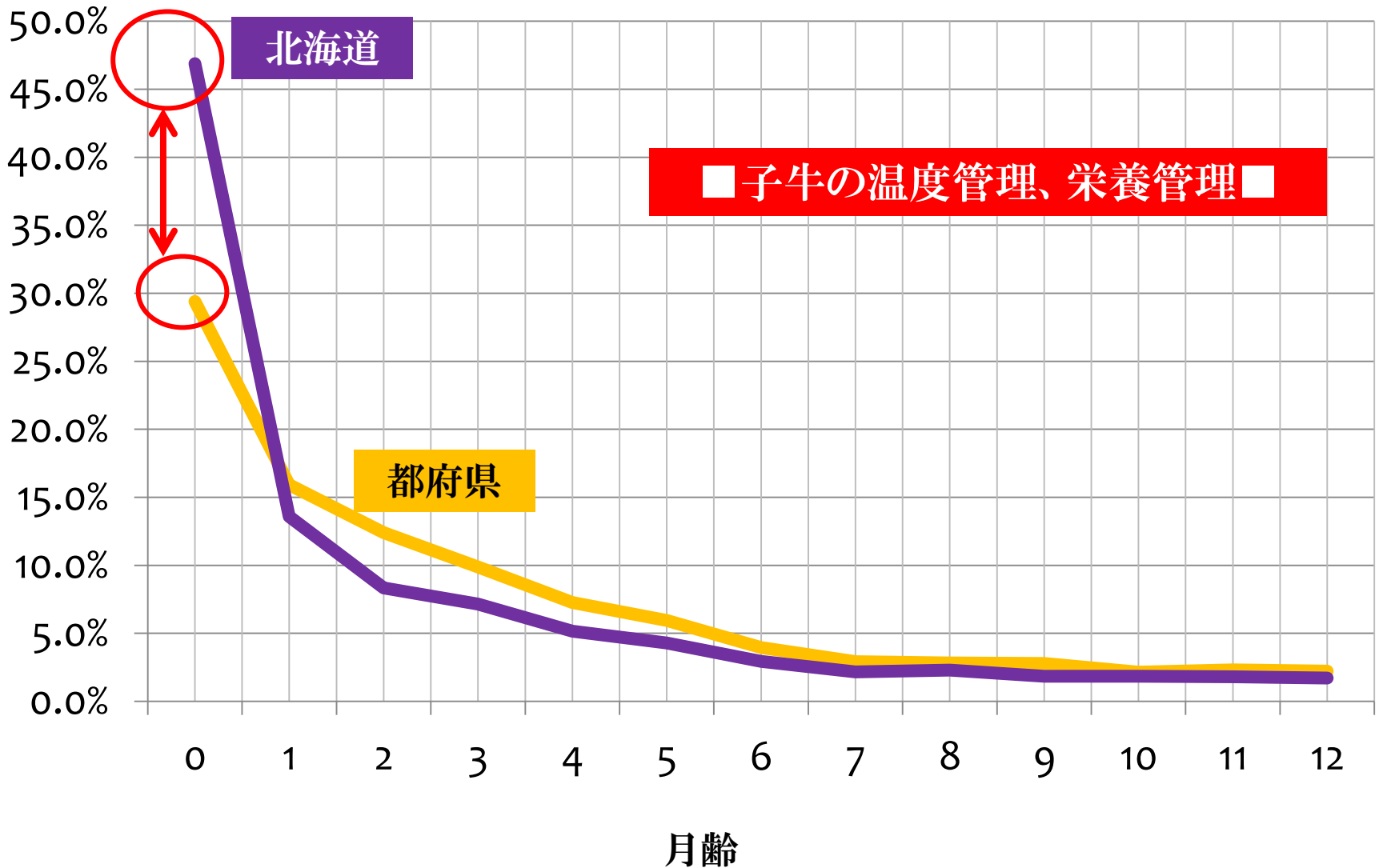
■いかにして後継牛を確保しつつ、
副産物販売を最大化できるか？

乳牛の死廃頭数(月齢ごと)



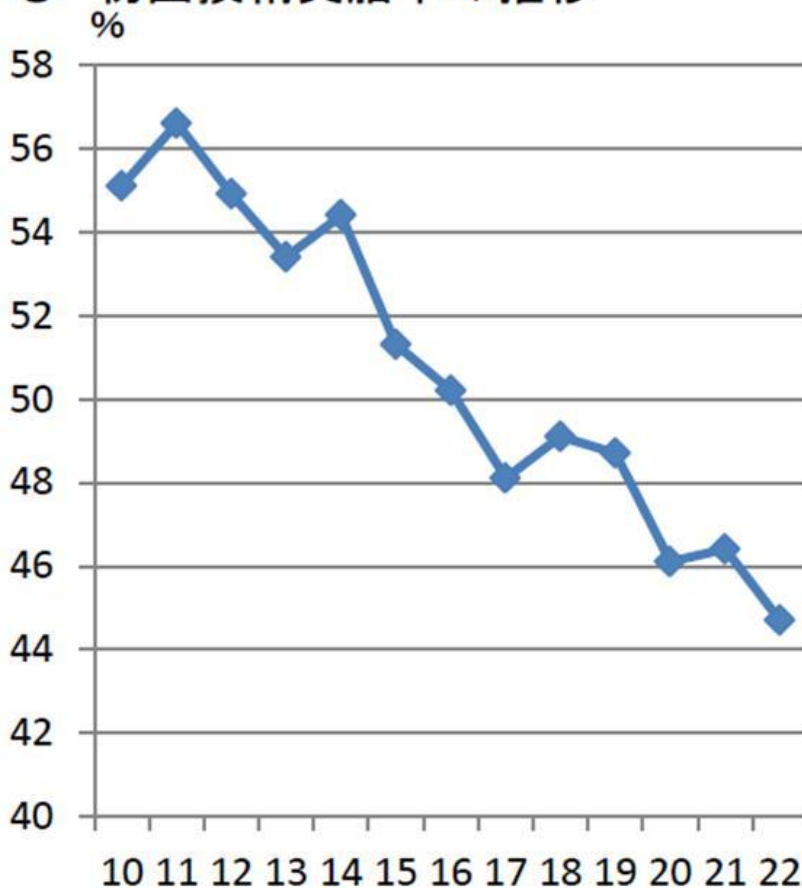
出生後1年未満で死亡した子牛 月齢ごと死亡割合(地域別)

割合

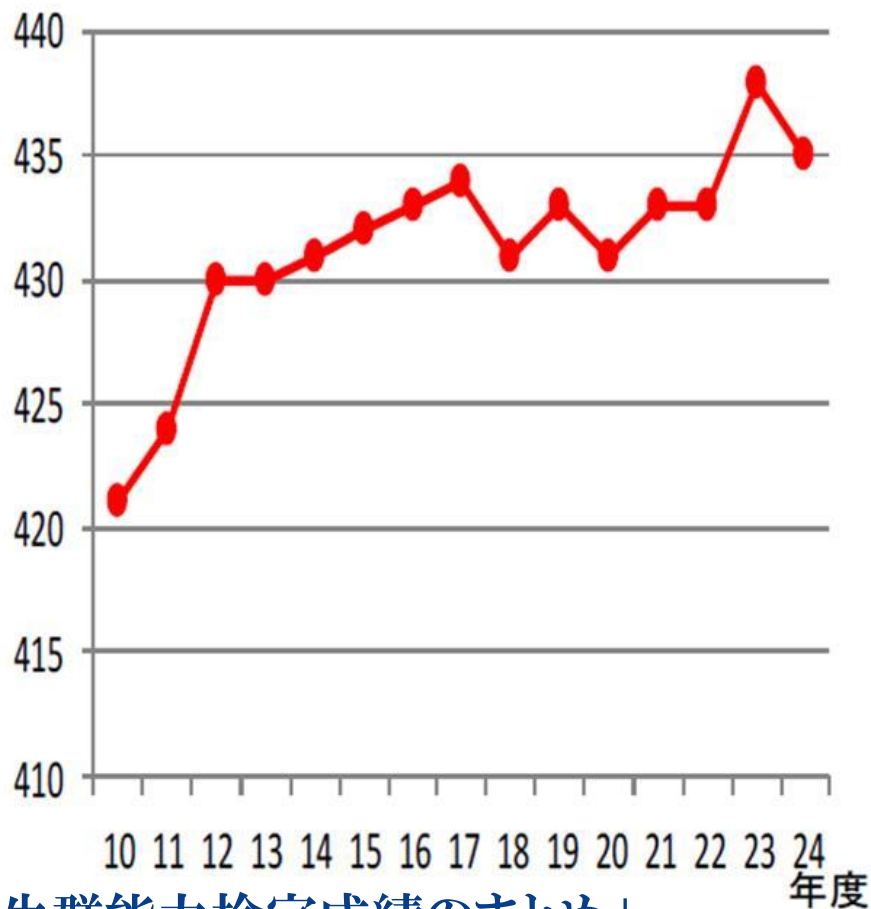


繁殖成績が下がっている

○ 初回授精受胎率の推移



○ 平均分娩間隔の推移



資料：(一社)家畜改良事業団「乳用牛群能力検定成績のまとめ」

経営シミュレーション

～種付け戦略と更新率低減の効果は？～

設定条件

主に弊会収集データの平均値を利用しております。

- 頭数：経産牛 50頭、育成牛 25頭
- 年間乳量：8,420kg／頭
- 平均乳価：102.5円／kg
- 借入残高：3000万円(300万円／年の償還)
- 家計費：年間300万円

設定条件

<動態、種付>

- 分娩間隔： 14ヶ月
- 初産月齢： 24ヶ月齢
- 更新率　： 25%
- 種付(育成牛)：全て和牛
種付(経産牛)：2/3ホル
1/3和牛

<市場>

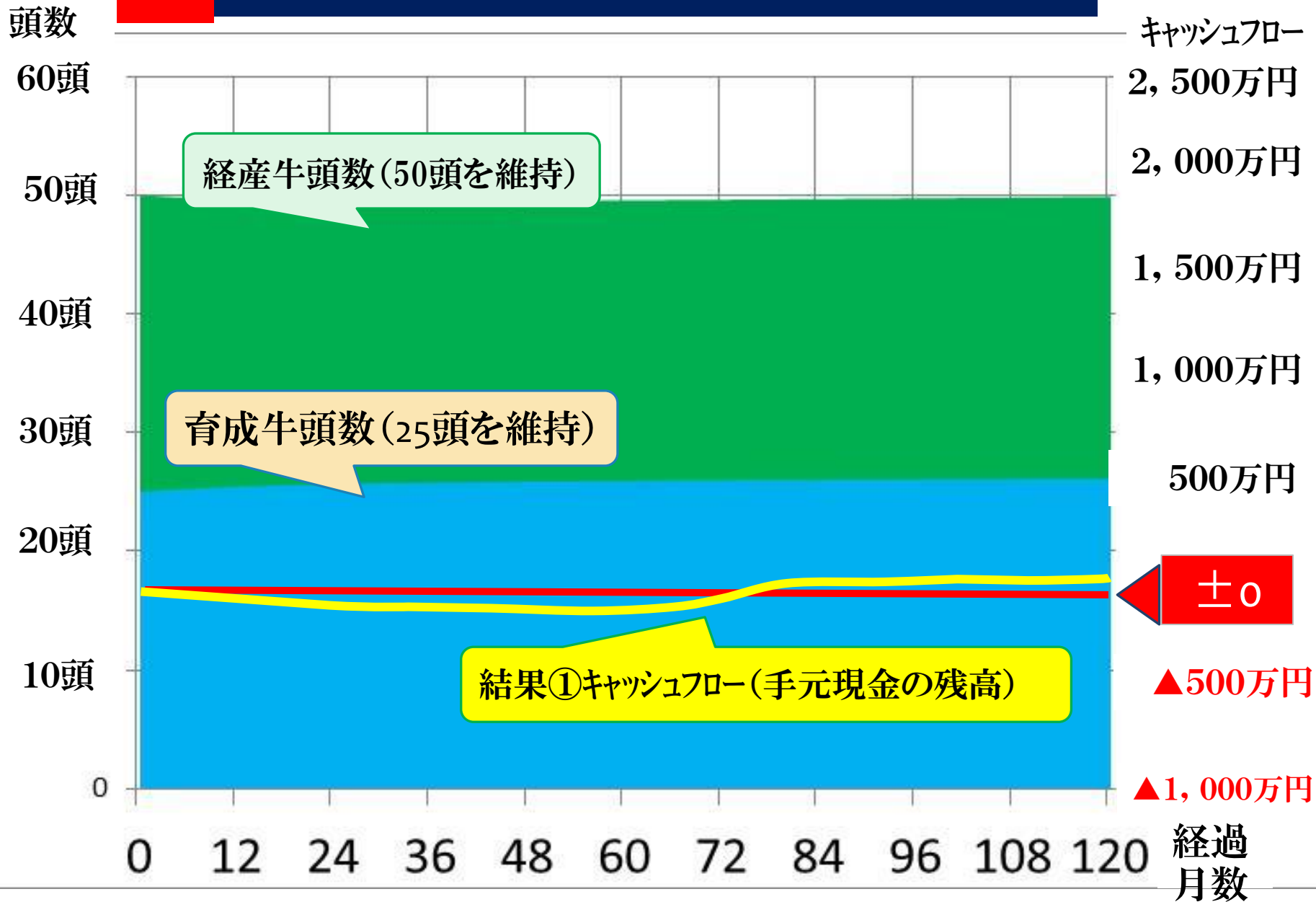
- ホル♂　　40,000円
- F1平均　　160,000円
- 和牛ET　　300,000円

<主な費用>

- 飼料費　　1350円／頭・日
- 動力光熱　200万円
- 修繕費　　115万円

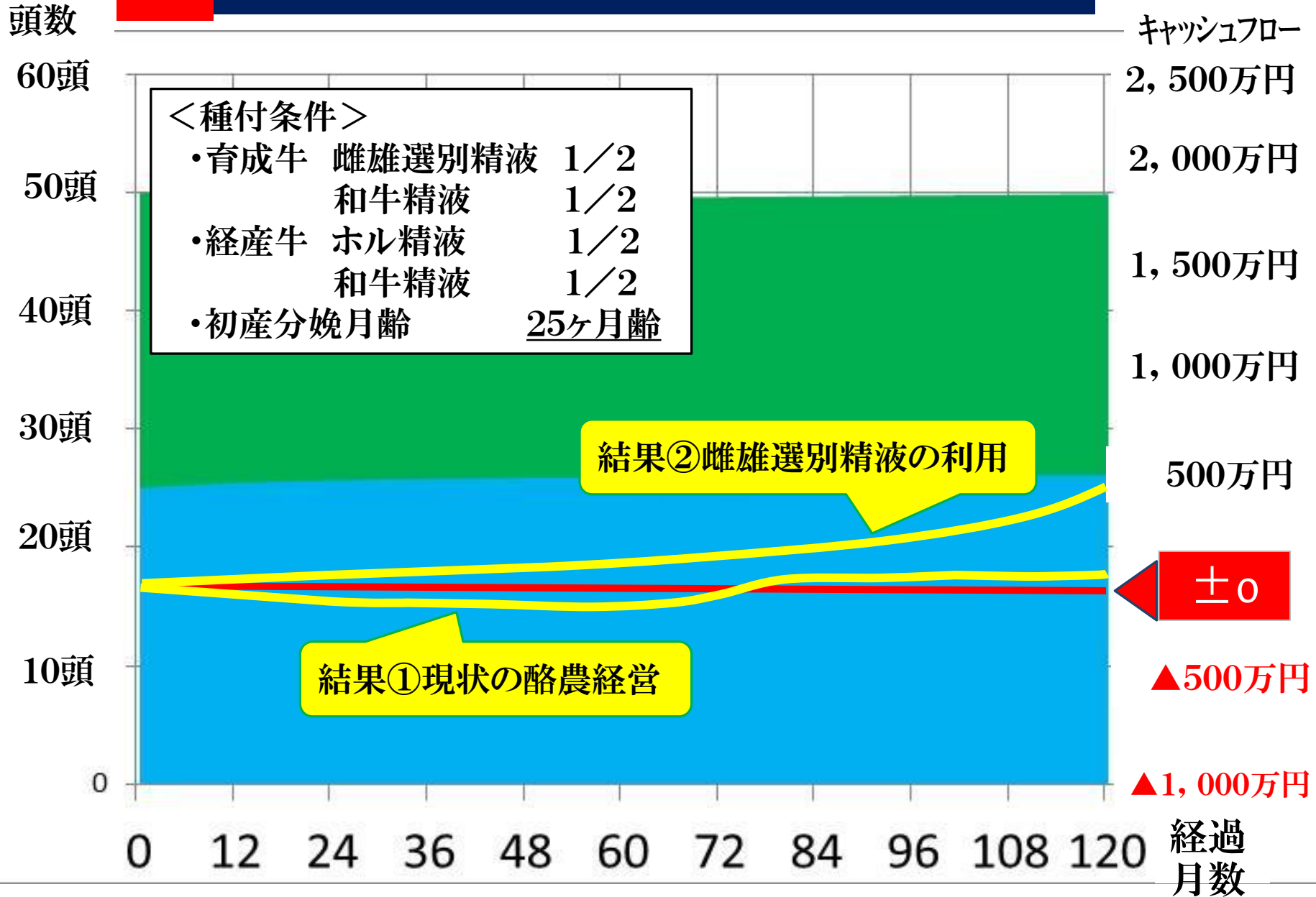
1

平均的な酪農経営の予測値



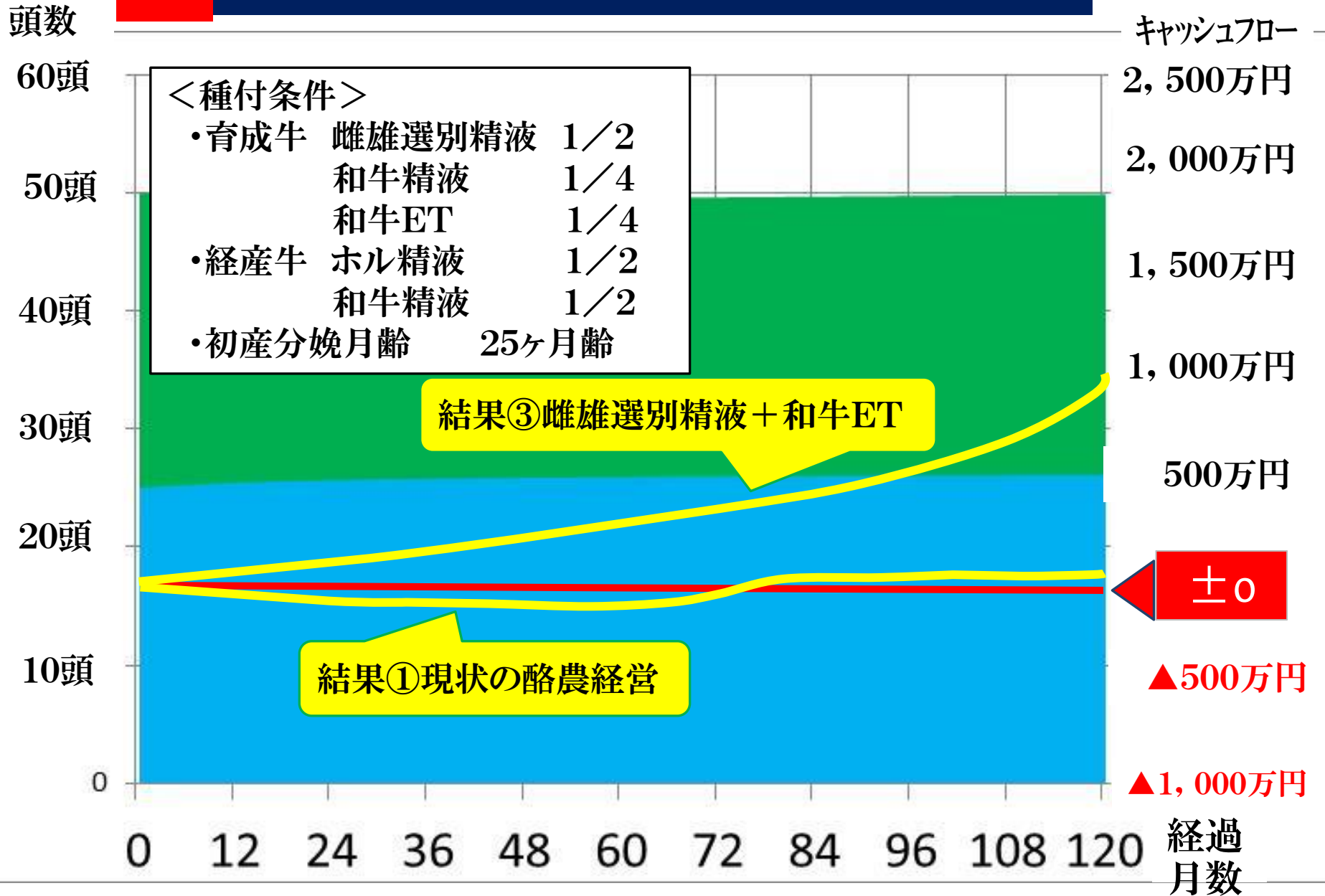
2

雌雄選別精液を利用するところなる..

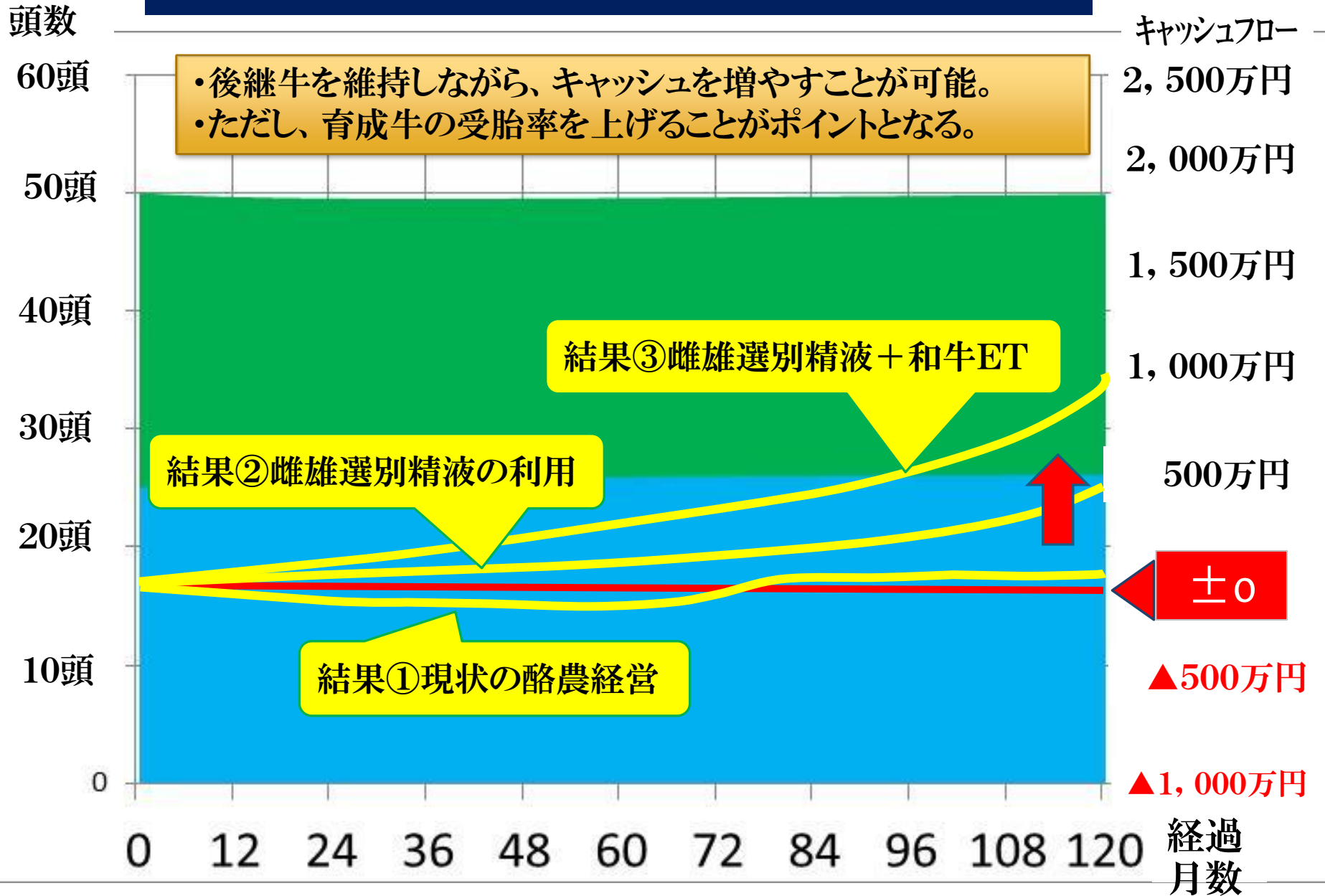


3

雌雄選別精液 + 和牛ETの利用

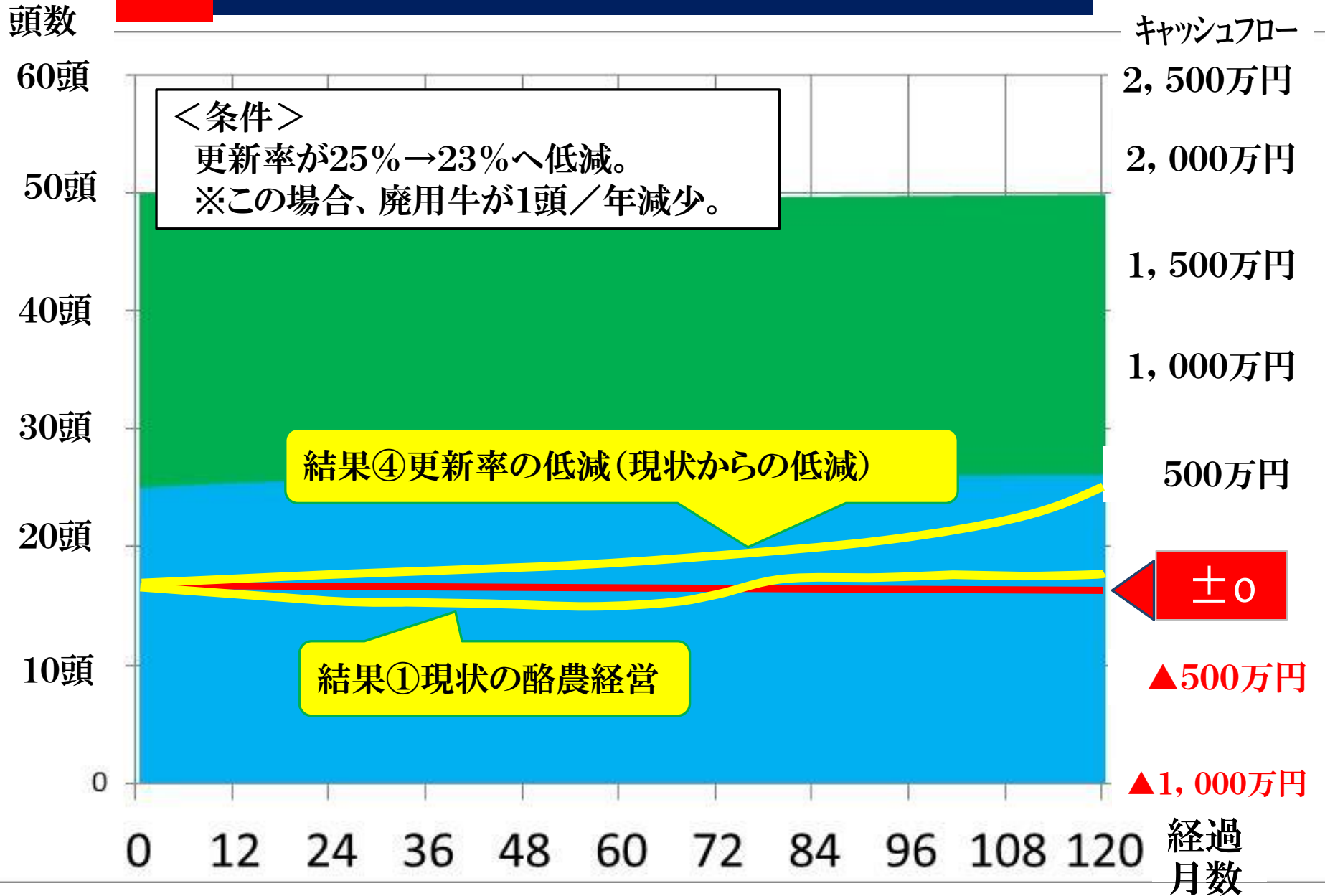


種付戦略がキャッシュフローに及ぼす影響



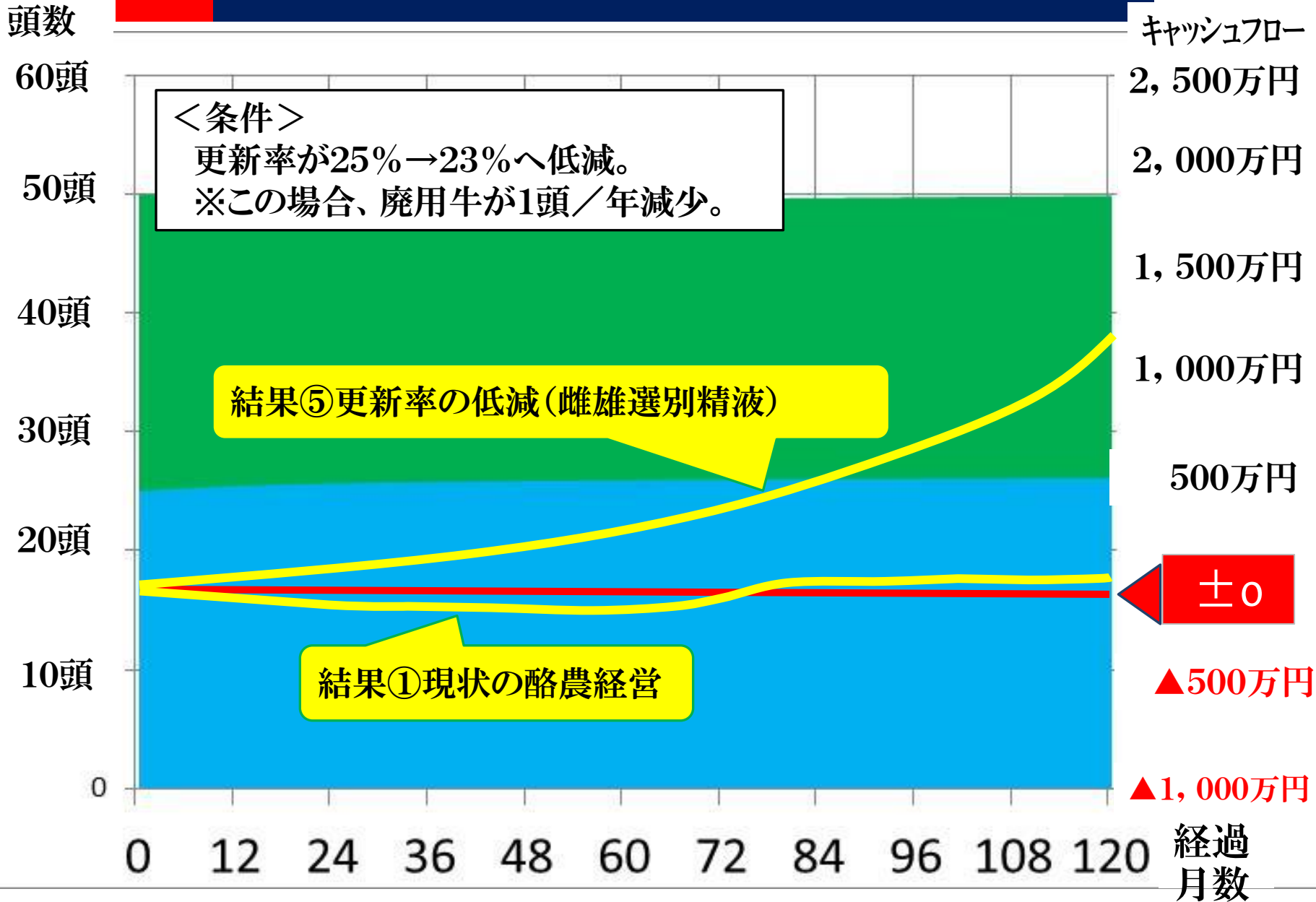
4

更新率が低減した場合

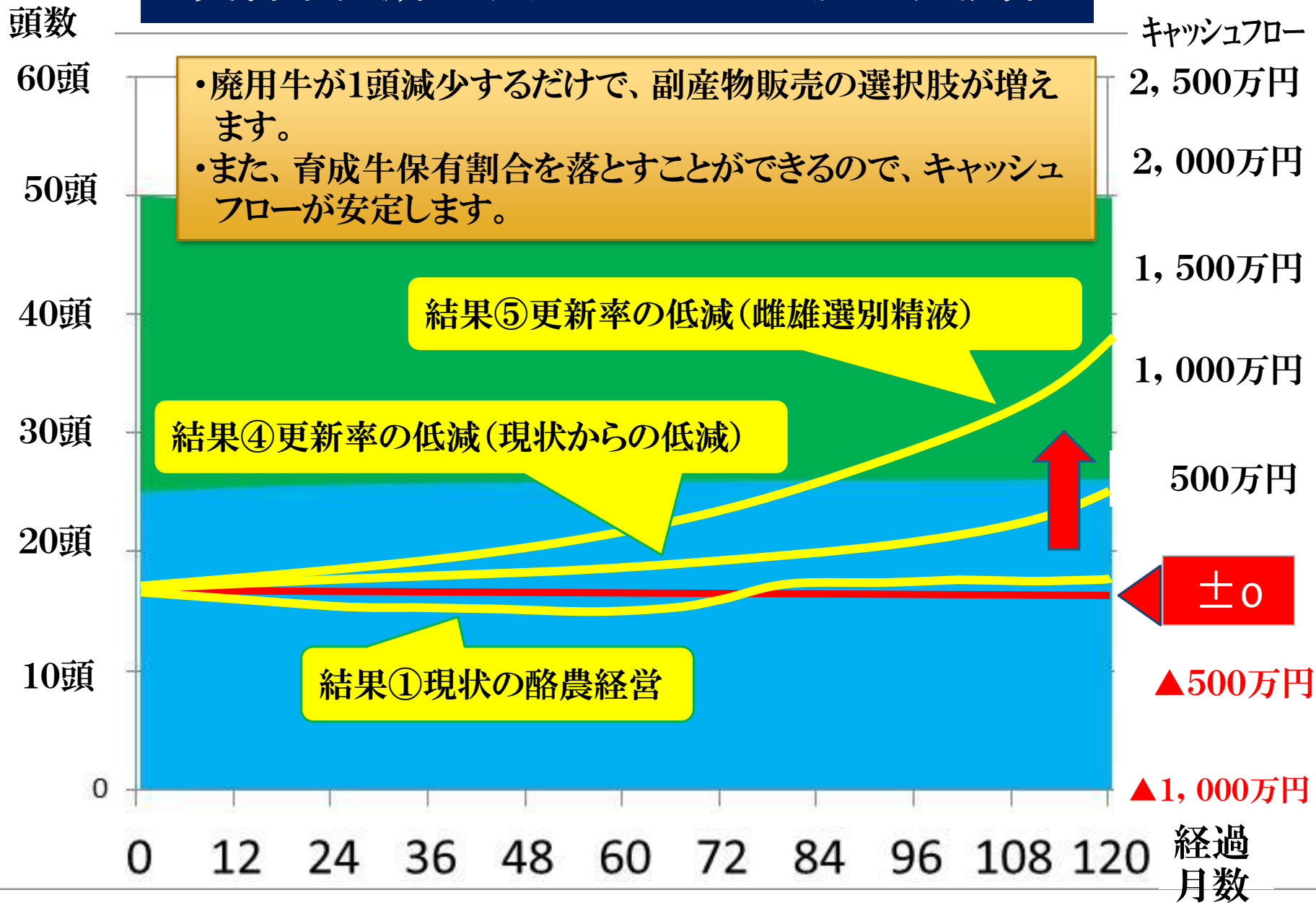


5

雌雄選別精液利用＋更新率が低減した場合



更新率低減がキャッシュフローに及ぼす影響



4. 何をすべきか？

■ 無駄な流出を防ぐ

- 1) 育成牛の死亡率を低減する
- 2) 無理のない更新率の低減

■ 後継牛を確保しながら、副産物販売を増やす

- 3) 種付け戦略 (雌雄選別精液 / 和牛ET)
・・・育成牛の受胎率向上
- 4) 経営シミュレーションを行ってみる